

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホームきららの里		
所在地	山口県長門市深川湯本600番地の1		
電話番号	0837-22-7000	事業所番号	3571100126
法人名	社会福祉法人福祥会		

訪問調査日	平成 19 年 10 月 10 日	評価確定日	平成 20 年 5 月 25 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 2 人 非常勤 6 人 (常勤換算 6.1 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 14,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	260 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	40 円
その他の費用	月額	19,000 円		
	内訳	日用品費 教養娯楽費 ガソリン代 水道光熱費 など		

(4) 利用者の概要 (10月10日現在)

利用者数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
	要介護 1	5	要介護 4		
	要介護 2	3	要介護 5		
	要介護 3		要支援 2		
年齢	平均 83.2 歳	最低	74 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 福永医院 福永病院 歯科 無
-------------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

一人ひとりの思いに応じ、その人らしい生活が送られるように、特にスケジュールは組まず、臨機応変な生活援助を行い、利用者にとってホームが自分の家、自分の部屋となっています。入居前には見学だけでなくショートステイを利用することもでき、なじみの関係ができた上で利用できます。母体法人である医療機関、関連福祉施設のバックアップ体制が円滑にとられ、状態に応じて退居先の受け入れもスムーズに行なわれ、利用者、家族の安心、安全につながっています。

(特徴的な取組等)

母体施設は、AED設置救急ステーションとして認定を受け、ホーム職員も研修を受け、地域に貢献されています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の外部評価の結果を会議で報告し、実践に向け話し合い実行しておられます。。

(今回の自己評価の取組状況)

今回、職員全員が自己評価を行い、日々の業務の振り返りとなり、業務に対して前向きな姿勢がみられました。

(運営推進会議の取組状況)

運営推進会議は、おおよそ4ヶ月に1回開催し、サービスの現状についての報告や、より良いサービスの提供について話し合っています。職員、家族以外のメンバーは3人(市職員、民生委員、区長)となっています。

(家族との連携状況)

本人、家族の意向を尊重し、家族の訪問時や電話連絡等で意見や要望等を聴取するほか、日ごろの暮らしぶり、健康状態、行事予定を知らせた便りと写真、預かり金の出納明細を送り、家族の安心につながるよう取り組んでいます。

(地域との連携状況)

近隣住居から離れたところに立地しており、触れ合う機会は少ないですが、地域の花火大会に出かけたり、法人全体の行事(夏祭り、敬老会)などに地域住民の参加があります。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	法人の基本方針をホーム向けに掘り下げて、職員全体で話し合いケアに反映している。	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	ホーム玄関に掲示しており、日々のミーティングで理解するとともに日常的に取り組んでいる。	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	法人全体の行事(夏祭り、敬老会など)に参加を呼びかけたり、地域の奉仕作業に一部参加しているが、近隣住居から離れた所に立地しており、触れ合う機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への積極的な参加 ・地域向けホーム便りの発行
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	前回外部評価結果を会議で報告し、実践に向け話し合い実行している。自己評価は全員で行い、サービスの質の向上に努めている。	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	サービスの現状についての報告やより良いサービスの提供について話し合っているが、職員・家族(複数)以外のメンバーが少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・参加メンバーの拡大 ・地域からの出席の検討
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	市担当者が家族会の行事等に参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月ホームでの様子・健康状態・行事予定を記入したお便りと写真、預かり金の出納書を送っている。面会時にも細かな情報を伝え、必要時電話連絡をしている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面接時や電話連絡、運営推進会議等で意見を聞いている。意見目安箱の設置、外部機関を明示し、また苦情処理の手続きを定めており、入居時に説明している。苦情処理の手続きや各種書類はファイルに整理され、玄関ホールに自由に閲覧できるようにしている。第三者委員の選任はされていない。	・第三者委員の選任
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	併設施設の職員の応援で、必要な職員の確保に努めている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	法人間の異動があるが、異動が最小限になるように努力している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は計画的に、勤務年数に応じた研修に出席できるようにしている。勤務の一環として研修に出席し、復命と伝達をしている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	北浦地区グループホーム連絡会に参加し、ネットワーク作りや勉強会、情報交換を行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に試しのショートステイができ、2名の方が利用し入居している。日頃から併設の施設入居者との交流があり、併設の施設からの入居者は自然に馴染んでもらえている。入居前に面接(訪問による面接も行なっている)を行い、情報を職員と共有し受け入れられている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>個々の力量に合わせて支援している。調理、掃除、洗濯物たたみなど一緒に行なっている。当日は巻き寿司を作られていた。巻く人、手伝う人、それを見ている人、笑い声が聞こえ和やかな雰囲気であった。「お願いします」「ありがとう」と言える支援を職員がそれぞれ実践している。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中で、本人の思いを汲み取るようにしている。本人本位で検討するように努めている。家族からも、本人の思いを聞くようにしているが、知り得た情報の記録・整理について不十分である。</p>	<p>・情報の記録と活用</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族の意向を尊重し、日々の様子、観察などからの情報を収集しカンファレンスを行い、介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>定期的(1ヶ月に1回)に見直しを行なっている。変化が生じた時は随時見直しを行なっている。本人・家族との話し合いの機会を持ち、その時に即した対応ができるようにしている。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>本人や家族の要望に、できるだけ沿うようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に希望のかかりつけ医師を確認し、緊急時の対応がスムーズに行くようにしている。他の科の受診についても利用者、家族の意向を聞きながら、支援している。協力医の往診もしてもらっている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期については現時点では対象にしていない。他施設の利用や変更をしている。家族へは入居時に説明している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの誇りや、プライバシーを損ねる言葉かけはしていない。個人情報の取り扱いについては法人の取決めがあり、利用者に明確に示されている。職員も守ることができるように努めている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの状態、好みに応じた支援を心がけ、一日のスケジュールなどは特に設けていない。利用者主体を心がけ、どのように過ごしたいのか、できる限り希望を汲み取った支援をしている	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事のメニューを一緒に考えたり、買い物から後片付けまで、できる所を利用者の得意分野を活かして、協働で行なっている。調査日には海苔巻き、おはぎを一緒に作っていた。お酒は行事の際に、本人の希望で楽しんでいる。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は14時～17時としている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	畑仕事、散歩、買い物、花見など個々に合った支援に努めている。地域の花火大会に出かけたり、併設施設のボランティア訪問時への参加をしているが、生活歴、本人の意向の把握が十分とはいえない。大正琴を弾いたり、お茶を飲みながらお喋りをしたり、食事やおやつ作りなど楽しく過ごしていた。	・生活歴、本人の意向の把握
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、ドライブなど支援している。季節を肌で感じ、心身の活性につながるように支援しているが、その日の個々の希望に添えず、職員の計画によるものとなっている。	・希望に添った外出支援の検討
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	勉強会を行ない、各職員が理解した上で介護にあたり、抑制や拘束は行なわれていない。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害を十分理解しており、夜間のみ施錠をしている。職員の見守りを徹底し、利用者のその日の状態をきめ細かく把握することで、日中は玄関に鍵をかけず、自由な暮らしを支援している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時のマニュアルがあり、定期的に研修は実施しているが、一人ひとりの状態に応じた事故防止への取り組みが不十分である。ヒヤリはっと・事故報告書があり、改善策を検討し、再発防止に努めている。洗剤、台所用品の管理が適切でない。	・日頃からの事故防止の研修 ・適切な保管場所の確保
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	母体施設にAEDが配備され、全職員講習を受けている。緊急対応についても年数回訓練を行っている。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルがあり、避難訓練を併設施設と年4回行っている。併設施設との協力体制はできているが、地域住民との体制は整っていない。消防署への利用者の状況の情報提供はしていない。	・地域への協力要請 ・日頃の避難訓練の実施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬は一回づつ手渡しし、服用するまで見守っている。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	利用者の状態により、一緒に行き見守るなどしている。義歯の清掃・消毒は週1回行っているが、歯ブラシ・コップなどの清掃、管理が十分でない。	・定期的な歯ブラシ、コップなどの清掃、保管
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を記録し、職員が情報を共有している。摂取カロリーや栄養バランスについては、併設の栄養士の助言を受けている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	行事や日常の写真、季節に合わせた掲示物、季節の花を飾り、五感に働きかけるようにしている。不快な音・臭い・光が無く、居心地よく過ごせるように、配慮している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	写真や使い慣れた家具を持ち込んでいる。全室洋室であるが、希望により畳(ホームが準備している)のコーナーを儲けたりし、本人が居心地よく過ごせるようにしている。ベットと寝具はホームが準備しているが、持ち込みも可能である。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームきららの里
所在地	山口県長門市深川湯本600番地の1
電話番号	0837-22-7000
開設年月日	平成 11 年 10 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (9 月 現在)

ユニットの名称	きららの里
ユニットの定員	9 名

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>今後、運営推進会議に沿って、地域の方々とのふれあいのもと、地域に根ざした入居者の生活という視点での理念作りに努めていく。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員間では独自の勉強会で理念について、理解を深め、確認しているが、新職員採用時には、説明などを行っていない。</p>	<p>職員採用時に、理念について伝え、理解してもらおう。また、ケース会議等において、理念を確認した上で、方針について意見交換を行うようにする。</p>
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>	<p>わかりやすく掲示し、また、勉強会にて伝えるよう、努めているが、新職員採用時には、明確には伝えていない。</p>	<p>新しい職員に対し、早いうちに明確に伝えていくようにしたい。</p>
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>	<p>スタッフ会議・部署内勉強会を月1回ずつ実施し、そのときに応じた、サービス向上に向けた話し合い実践を行うように努めている。母体施設においても、研修を行い、常にサービスの質向上に向けて熱意を持って取り組んでいる。</p>	
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>来訪者が来訪時に見える所に掲示している。運営推進会議及び家族会にて、説明の機会を設けている。</p>	<p>入居時に分かりやすく説明を行う。又、折にふれホーム便りなどに掲載していく。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>	<p>近隣住居から、離れた位置にあり、声かけや立ち寄りが実質的に難しい。</p>	<p>離れた距離でも気軽に付き合いが出来る工夫について、検討したい。</p>
7	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>夏祭りなど、地域の方々を呼ぶ行事を行い、参加して頂いている。</p>	<p>苑内での行事ばかりでなく、地域の行事(お祭りや運動会など)に参加していくよう、努めたい。</p>
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>母体施設において行われる、介護教室などの協力参加。</p>	<p>グループホームの独自性を生かした地域貢献の具体案への取り組み及び、他部署職員の地域での活動への協力参加</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義を理解し、改善に向け努めている。	外部評価を初めて経験する職員への理解を深める。
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議において、サービスの現状について報告、及びより良いサービス提供をテーマに話し合いを行っている。	地元の民生委員・自治会長に会議や行事に参加を頂き、町内での波及活動に協力して頂く。また、運営推進会議において、評価の報告及び話し合いを行っていく。
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の介護保険班のグループホーム担当者とコミュニケーションをはかり、家族会の行事などに参加して頂いている。	これまでの行事や会議への参加の継続とともに、さらにコミュニケーションの機会を増やしていくよう努める。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	研修の参加を積極的に行い学ぶ機会を持っている。権利擁護について、必要性のある方には、利用支援を行い、活用している。	独自の勉強会でもテーマにあげ、各職員が理解を深められるようにする。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修の参加や施設内での勉強会でテーマに取り上げ、学ぶ機会を設けている。各職員が常に虐待防止を年頭においてケアにあたっている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には書面・口頭合わせて、説明を行っている。又、解約以前からホームの状況を分かりやすく説明するよう努め、理解を得られるようにしている。	解約時にも、入居者やご家族に対し要望や疑問点を訊ね、後に生かすよう努めたい。
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的に職員が気軽に意見を聞かせて頂ける雰囲気をつくるよう努めている。又、介護相談員の活用も行っている。	
16	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月1回、通信文意状況報告を添えている。また、来訪時には、細かな情報を伝えるよう努め、特に必要と思われる際は、電話連絡をさせていただいている。	職員の移動については、通信文を活用したり、自己紹介をするなどし、今後、報告の機会を設ける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	これまで、要求の例がないため、今後対応を考える。		情報開示を行う事について、通信文や家族会等を利用し、入居者や家族に伝える機会を設ける。
18 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情処理手続きは明確に定め、窓口等は来訪時に見える所に明示している。また、入居時の説明において、文書及び口頭で手続きについて説明している。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のスタッフ会議では、運営者を含めての検討の機会を設けている。その他、随時、管理者が意見を聞き入れるようにしている。		交替勤務のため、全員での話し合いが出来ず、意見統一が難しい。なるべく、大人数での会議を設けたい。
20 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	併施設設職員の応援を取り入れ、必要な職員確保に努めている。		
21 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	複合施設により、運営している関係で、職員の異動については退職者も含めて全く異動のない状態を保つことは難しいが、極力必要最小限にとどめている。		
5. 人材の育成と支援			
22 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修については、勤務年数に応じた研修に参加するよう、職員を振り分けている。		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	職員の資質はもちろん、性格等も考慮し、配置に努めている。		
24 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	北浦地区グループホーム連絡会等に職員を参加させ、ネットワーク作りや勉強会、相互間の情報交換により、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		外部研修・内部研修を通して、自己啓発を図るよう「業務管理評価シート」を作成し、個々人の目標管理に努めている。また、その後には苑長が個々人と面接を行っている。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		上記の方法で行う。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		入所後も定期的にあセスメント様式を活用し、定期的に必要な機会を作り、受け止めていくように努める。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		今後、要望が認められた場合、対応に努める。
31	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		ショートステイ以前に、日帰りのサービス利用も行う事ができるよう、検討していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		寄り添い、一緒に過ごす、支えあう関係作りの具体化と職員間での理解の共有に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の訪問時、対等であるように努め、共に入居者について考えあうように努めている。		常時家族からの意見を聞くことの出来る工夫について、スタッフ会議等で職員間で検討する。
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	入居時及び、普段のかかわりの中で、本人や家族からの話を丁寧にきくように努め、理解に努めている。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会等の自由・継続に努めている。しかし、馴染みの関係は途切れる傾向にある。		馴染みの関係を継続するために、これまでの関係のアセスメントを丁寧に行い、継続する方法を入居初期段階で、検討し、実施する。
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者間関係は職員が情報共有し、日常生活の中で見守り、また一緒に過ごしたり、時には間に入る工夫をしている。		入居者間関係作りもケアプランに取り入れ、具体的に支援できるようにしていく。
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	併設施設、また他施設へ行かれた方へは訪問したり、招待したり関係作りを積極的に行っている。また、入院者へは折をみて面会に伺っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1.一人ひとりの把握				
38	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケース会議では現状の本人の移行を本人本位で検討するよう努めている。また、家族からも本人の声を聞くことができるよう努めている。		具体的に本人の意見を聞くようにし、本人の言葉で把握していくよう努めていく。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、本人及び家族から聞き取りを行っている。また、必要に応じて利用していたサービス事業者からも情報を提供して頂いている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ひとりひとりの行動に留意し、気付きはミーティングを利用し、職員間での情報共有に努めている。		ひとりひとりの1日の流れについて記録化し、臨機応変にどの職員も対応出来る体制をつくる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的に行うケース会議において、職員間で意見を出し合っている。本人・家族からは来訪時等利用し、意見を聞き、話し合いを行っている。	本人・家族からの定期的な意見交換の場を作りたい。
42	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	出来る限り、その時に即した対応をする為に、本人・家族との話し合いの機会を持ち、新たな計画作成を行っている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日誌・個別記録に個々の様子とその時工夫した対応を記入できるよう様式を作成して、記録に努めている。	個別記録の方法について、職員間で勉強の機会を持ち、記録技術の向上も図る。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居時、また入居中も本人や家族の要望についてはその都度検討し、できる限り要望に沿った対応に努めている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を通じて民生委員の方とのつながりに努め、また、ボランティアの受け入れを行っている。	今後、警察や文化・教育機関等とのつながりを持つことのできる機会を作りたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)	家族・ボランティアの受け入れは積極的に行っている。	認知症への理解・かかわり方についての相談受付は今後、具体的方法を検討し、実施に向けた。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現状では本人の意向が見られないため、特別に支援は実施していない。	他のサービスの利用について、本人及び家族に伝えていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		法人外の病院関係者との情報交換について、さらに工夫を検討する。
53	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	同上	
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	職員は日常的にプライバシー尊重について、勉強し常時守ることができるよう努めている。	スタッフ会議等で定期的に、プライバシーを損ねる言動をしていないか、各自チェックする機会を設ける。
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	日常的にその人その人に合わせた声かけを行い、本人のペースに合わせて生活できるように努めている。	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	利用者の「できる力」についてケース会議やミーティングを通じて職員間で情報共有し、支援に努めている。	スタッフ会議等で定期的に職員本位の支援となっていないか、見直しを行う機会を設ける。
59	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	ひとりひとりのその日の状態を職員それぞれが把握し、できる限り希望を汲み取って本人に合わせた支援に努めている。	同上
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	併設施設への訪問美容をほとんどの方が、家族の希望もあり、利用している。	本人の希望に沿い、通いながれた美容院への利用を希望する方には、支援をしたい。
61	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	調理・配膳・片付けはそれぞれの入居者の得意分野を活かして協働で行っている。	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	お酒は、行事の際、本人の希望で楽しんでいる。おやつは、全体で同じ物を同じ時間ではあるが、買い物の際に同行した入居者が選んだものを楽しんで食べている。	日常的に個人のペースに合わせて、楽しんでいただける工夫について検討したい。
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	観察が必要と思われる方に、排泄チェック表を使用し、排泄パターンの把握に努めている。	紙パンツを常用している方へ、より自立に向けた支援を進めて行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		入居者の中に夜の入浴を希望される方もあり、安全性との両立を考えながら、検討・努力したい。
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		個人のケアプランを本人・家族・職員の意見等取り入れて作成し、その人に合った楽しみ事、気晴らしの支援をしていく。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		ミーティングやケース会議等を通して、ひとりひとりの金銭管理について職員間でも情報共有し、支援に活かしていく。
68	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		職員の勤務体制に考慮しながら、併設施設の職員の応援も取り入れ、それぞれの希望を取り入れることができるよう工夫する。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		個別外出への取り組み。外出計画への入居者の希望の積極的な取り入れ
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		入居時に家族へ勧めたり、交流先の情報把握に努める。
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		今後、希望がある場合は、上司と相談して対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		ミーティング等で常時、抑制や拘束について確認しながら、ケアに取り組む。
75	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		入居者に危険が及ぶ状況にならないケアに取り組んでいく。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		時に応じて、勉強会を行い、実践に役立つものとしていく。
79	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告者や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		地域の方々との協力体制の確立に向けての取り組み。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	症	服薬に関し、ミーティング時に書面に加え、口頭でも確認を徹底していく。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		定期的な歯ブラシ等の管理チェックの実施
87	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		今後、さらに詳細について栄養管理、状態観察をしていく。
88	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		勉強会を利用し、マニュアルの確認・職員間での徹底周知に努める。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		定期的な衛生管理チェックの実施。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の飾りつけ等工夫し努力している。	建物周囲の花壇作りの実施
91	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	職員それぞれが常時、環境に気配りするよう努めている。生活感・季節感があるよう装飾や花等飾っている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共同空間が限られており、一人で過ごす事は難しい。入居者同士でソファで楽しく会話することができる空間作りはしている。	テーブルやソファの配置の工夫。
93	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時また日常的に本人の状況・家族への相談を通し、工夫に努めている。	本人の状況に合わせた衛生面も考慮した居心地の良い空間作りの工夫
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	湿度調節については、空調設備による調節、入居者の状況に応じて、職員が常時、気にかけて実施している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	入居者それぞれの個室は個人に合わせて、空間作りを行い、また共同生活空間も安全かつできる限り、自立した生活ができるよう手すりや家具の配置、目印の作成等、工夫している。	入居者の心身上の変化に合わせて、今後も工夫を重ねていく。
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個人にあわせて、トイレや居室の表示を工夫している。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑作りができるよう場所作りしている。	更に楽しく散歩などできるよう、花壇作りや足元の整備などしていきたい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input checked="" type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない